厚木駅周辺の駐輪場対策の見通しは

民主党・無所属クラブ　外村　昭

問：小田急が管理するさつき町側自転車駐車場に、時間貸し区画を設置できないか伺います。

また、厚木駅前旧ゲームセンター前の不法駐輪車の撤去ができないか伺います。

さらに、小田急が管理する自転車駐車場の利用率が、整備前と比べ低下している実態について、市の見解を伺います。

答（市民協働部次長）：さつき町側自転車駐車場の時間貸し区画の設置ついては、鉄道事業者に要望していますが、他の駐車場にまだ空きがあることなどから、現段階では設置できないとのことです。

不法駐輪車の撤去については、巡回員が利用者に指導していますが、県道を管理する県に対しても、対応を要望していきます。

駐車場の利用率が低い要因として、利用料が有料となったことが大きいと考えますが、料金の値下げは、沿線全体で統一的な設定をしているため、考えていないとのことです。

▲改善が望まれる駅前の不法駐輪

福祉用具購入に受領委任払い制度活用を

共産党　志村　憲一

問：介護サービスを利用する高齢者が、自分にとって必要な特定福祉用具を購入する場合、現在は、償還払いの制度となっており、いったん全額を支払わなければなりません。限られた年金収入の高齢者にとっては、一時的に負担が大きくなっているのが実態です。負担の少ない受領委任払いの制度を導入するべきと考えますが、市の考えを伺います。

答（市長）：介護サービスにおける福祉用具購入および、住宅改修費については、利用者がいったん費用の全額を支払い、あとで市から9割の保険給付分の払い戻しを受ける仕組みとなっています。しかし、利用者と事業者の合意のもと、利用者が1割分を事業者に支払い、事業者が残りの9割分を市から受け取る受領委任払い方式があります。これは、利用者の一時的負担を軽減できるというメリットがあるため、本市としても、導入の方向で検討していきたいと考えています。

市内全校、屋内プールを使用しての授業早期実現を

新政海クラブ　氏家　康太

問：19年度から小中学校の水泳授業が一部試行的に屋内温水プールを使用して実施されています。指導面、安全面、施設維持管理面のほかに授業が計画的に実施できることもあり、22年度には9校まで拡大されます。市内学校プールの多くは築30年を経過しており、数年のうちに改修が必要となります。改修経費の面からも屋内プールへの移行はメリットが大きく、当然の帰結と判断します。

そこで、屋内プールの使用拡大方針を今後も堅持し、早期に全校移行に努めていただきたいと考えますが、市の見解を伺います。

答（教育長）：教育委員会として屋内プールを使用しての小中学校の水泳学習実施の方針を打ち出し、22年度はさらに2校追加して市内9校で実施します。安全によりよい環境で学習できることが大切と考えており、今後も運用上の工夫を図り、他市に先駆けて、屋内プールの使用拡大に向けて積極的に取り組んでいきます。使用拡大に当たっては、一定期間、午前中に優先使用が必要なため、指定管理者と調整を進めながら、市民の協力が得られるよう取り組んでいきます。

▲9校が水泳学習で使用する屋内プール

相模国分寺跡の復元化構想を

海政会　飯田　英榮

問：市は、相模国分寺跡および尼寺跡の公有地化を進めています。現在、国分寺跡の74％、尼寺跡の69％が買収済みとなっており、七重の塔基壇も復元されています。国分寺跡の復元は、他都市ではできない海老名市だけの取り組みです。史跡地の4分の3以上が公有地となった今、復元化への構想計画を策定するのが、市の将来に向けての活性化にもつながると考えます。元気な海老名を持続させるためにも、相模国分寺跡の復元化構想を打ち出す時期と考えますが、市の将来構想を伺います。

答（教育長）：相模国分寺跡および尼寺跡の公有地化は進んでいますが、復元は、現在の市の財政状況を考えると、大変厳しい状況です。現在、相模国分寺跡の公有地化率は約74％ですが、今後、買収する個所は、住宅地であり、買収の交渉も難しく、時間と多額の費用がかかります。まずは、住宅のない部分の公有地化に努めていきます。

▲公有地化が進む相模国分寺跡

健康保持・増進にウォーキングを

民主党・無所属クラブ　坂本　俊六

問：ウォーキングは、誰でも、いつでも、どこででも気軽に楽しめ、健康保持・増進を図ることができる優れものです。幸い本市は、文化遺産も数々あり、田園風景も見られ、ウォーキングに最適な環境にあると思います。海老名市観光協会や鉄道会社、農協などと協力して、ウォーキングコースを選定し、鉄道各駅前に案内図、ベンチや表示板などの整備をしてはどうか、お聞きいたします。

答（市長）：ウォーキングは、人と社会を元気にする運動であるといわれており、先日開催した「圏央道海老名インターチェンジ開通記念・相模川リバーサイドウォーク・イン・えびな」をきっかけに、ウォーキング人口が増え、市民の健康増進が図られることを願っています。ウォーキングコースの環境整備については、今後、圏央道の完成により、さがみグリーンラインが整備され、快適なウォーキングコースが創出されることになっています。

▲盛大に開催されたリバーサイドウォーク

社家駅周辺の整備構想は

新政海クラブ　鶴指　眞澄

問：南部地域の拠点としてJR相模線社家駅周辺が整備されます。そこで、整備の構想がどのような内容のものなのか、また、地域住民がどのようなまちづくりを望んでいるのか意見を集約していくことが必要であると考えますが、どのようなプロセスを経て地域住民と合意形成を図られていくのか伺います。

答（市長）：均衡ある市域の発展を考慮すると、南部地域の拠点はJR社家駅が適地と考えています。送迎車両の乗降場所の確保や自転車と歩行者動線の交錯防止を目指します。

答（まちづくり部長）：社家駅前ロータリーの形状やバスなどの出入りの可否、駅前拠点施設の設置などを含めた南部地域の拠点にふさわしい計画案を検討しています。整備に当たっては地権者などに理解と協力をいただけるよう話し合いを続けながら22年度から本格的に用地買収を実施していきたいと考えています。

▲南部地区の拠点にふさわしい駅前に

市制40周年市民まつり運動公園開催を

新政海クラブ　市川　敏彦

問：先日、海老名インターの開通を記念して、「相模川リバーサイドウォーク・イン・えびな」が開催されました。私も実行委員として携わりましたが、当日は、一度に1万4000人という市制始まって以来の大勢の参加者が集まり、まさに、「元気な海老名」を発信できたと思います。このイベントが成功した要因の一つに、運動公園の存在があると思います。運動公園は、駐車場、広場、会議室、夜間照明、放送設備など、総合的に整備されています。そこで、市制施行40周年となる、23年度の市民まつりを、運動公園で開催してはいかがでしょうか。

答（市長）：21年度の市民まつりは、13万1000人の来場者により、盛大に開催することができました。しかし、ステージの出演時間の短さや、テントの増設がほぼ不可能なこと、露天商通りの混雑状況、交通規制の難しさなど課題も多くあったと感じています。23年度は、市制40周年記念の「市民まつり」となりますので、関係団体と調整の上、一つの案として、運動公園での市民まつりの開催を検討していきたいと考えています。

▲市制40周年記念の市民まつり会場として検討